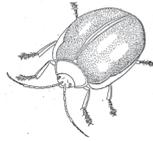


たんぽう



上郡町で得たキュウシュウツチハンミョウ (Coleoptera: Meloidae) について

大貝秀雄

兵庫県産のツチハンミョウ族 Meloini は、高橋(1982)により3種が報告されている。そのうちの1種キュウシュウツチハンミョウ *Meloe auriculatus* Marseul, 1876 は、兵庫を基産地として記載された種であり、旧神戸居留地内で採集されたものかと推測されるが詳細は不明である。その他に本種は、神戸市鳥原、加多郡三谷、豊岡市妙楽寺からの記録がある(高橋, 1982)。筆者は、これまで記録がなかったかと思われる西播磨から本種を採集しているのので、以下に報告する。

1 ♂: 上郡町上郡鈴の宮公園 15-X-2022. (図1左)

1 ♀: 同所 19-XI-2022. (図1右)

♂は園内に建てられた神社へと上って行くコンクリート路沿いのススキ類をスイープして得た。♀はその神社拜殿のコンクリート床上にひそんでいたものであり、腹部の肥大を認めなかったのので、産卵を終えた後の個体かと思われた。これらは同一種とみられ、秋に活動する



図1 上郡産キュウシュウツチハンミョウ。全形(背面), 左♂, 右♀。



図2 上郡産キュウシュウツチハンミョウ♂。右触角基半部。 図3 上郡産キュウシュウツチハンミョウ♀。右触角基半部。

こと並びに触角第1節が顕著には伸長しないこと等から *auriculatus* と同定した。

近畿以西に分布する *auriculatus* は、中部以東に産するメノコツチハンミョウ *Meloe menoko* Kono, 1936 に酷似しているが、岡野(2014)によれば、両種はともに個体変異が顕著で外部形態(触角)と♂の交尾器では明瞭に区別できないとされる。更に分子系統地理学的解析の結果からも、両種は同一種であることが支持され、*menoko* は *auriculatus* の異名とすべきものであると指摘された(Ohnishi et al., 2021)。

ところで岡山県には *menoko* の名で記録された報告(山地・渡辺, 1991)がある。その付図63”(♂頭部拡大図)を見ると、上郡産の標本と同様に触角第2節が短い柄部と肥厚した末端部とから成っていることがわかり、その末端部のみを第2節の節長と錯覚したための誤同定であったかと推察される。*menoko* が正式に *auriculatus* のシノニムになれば問題のないことかも知れぬが、誤りは訂正しておくにこしたことはなからう。

なお、Ohnishi et al. (2021) に用いられた試料の中に、佐用町船越と神河町川上産のオオツチハンミョウ *Meloe proscarabaeus sapporensis* Kôno, 1936 が含まれていたことを付記しておきたい。これは高橋(1982)には記録のない種である。

謝辞

引用文献をお教えいただいた愛媛大学農学部小西和彦教授と、岡山県で記録されたメノコツチハンミョウの情報をいただいた倉敷市立自然史博物館の奥島雄一博士に感謝申し上げます。

○引用文献

Ohnishi, O., Takenaka, M., Okano, R., Yoshitomi, H. and Tojo, K. 2021. Wide-scale gene flow, even in insects that have lost their flight ability: presence of dispersion due to a unique parasitic ecological strategy of piggybacking hosts. *Zoological Science*, 38: 122-139.

岡野良祐, 2014. 日本産ツチハンミョウ属 *Meloe* 2種キュウシュウツチハンミョウ *Meloe auriculatus* Marseul, 1876 とメノコツチハンミョウ *Meloe menoko* Kono, 1936 について. 日本昆虫分類学会第17回大会口頭発表.

高橋寿郎, 1982. 兵庫県のツチハンミョウ(兵庫県甲虫相資料・104). *PARNASSIUS* (26): 3-6.

山地治・渡辺昭彦, 1991. 岡山県より採集した甲虫類の記録. *すずむし* (126): 11-20.

(Hideo OGAI 兵庫県上郡町)